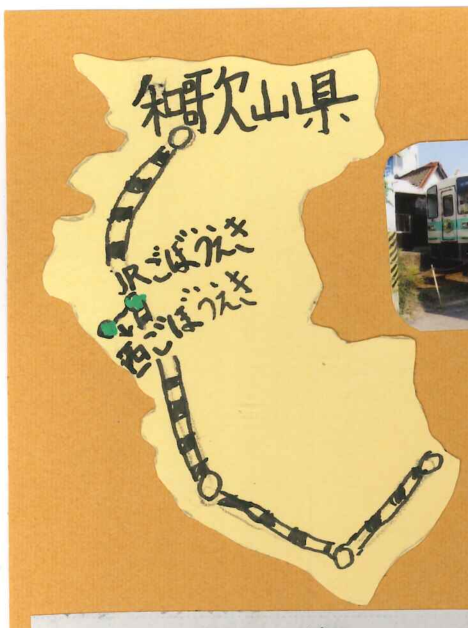
トコトコかわいい！

紀州鉄道新聞

発行日
2018年9月
発行者
新庄第二小学校
二年 林省吾

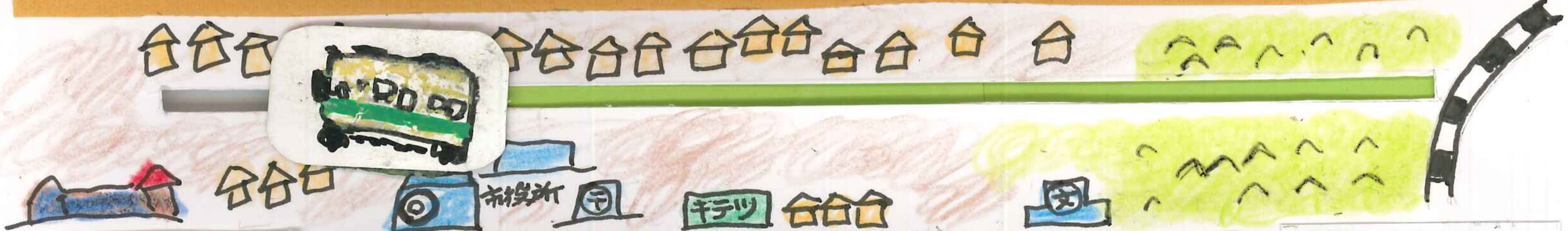
日本一短いローカル私鉄

2、7Kmのきょり 5つのえきを8分でむすぶ



紀州鉄道は和歌山県中西部の町、ごぼうにのびる2,7Kmのきょりで、JRごぼうえきと、西ごぼうえきをむすぶ、日本一短いローカル私鉄です。きょりでは第二位の短さを誇るものの、他社のり入れのない自己完結路線としては紀州鉄道が第一位です。昭和三年の開通以来、今年で90周年、ごぼうのはってんをささえ、今でも市民の足としてあいされ続けています。時速は約30Kmで、田畑や家並の中から市街地へとトコトコ走る小さな気動車はとてもかわいいです。

1928年	1967年	1973年	1979年	1989年
ごぼう臨港鉄道株式会社が設立。今年でちょうど90周年。	市役所前えきが新設。	ごぼう臨港鉄道から現在の紀州鉄道に。	中学前えきあと近くに、学門えきが新設。	西ごぼうえき〜日高川えき間が廃止。現在の2.7Kmの運営きょりになる。



西ごぼうえき

紀州鉄道の終点のえきです。えき舎は木造でとてもあじわいぶかいです。平成30年8月27日より完全無人化になりました。

市役所前えき

下車して、徒歩2分で市役所につきます。このえき周辺には、ぜいむしょ、ゆうびんきょく、公民かん、図書かんなどがあります。

きいごぼうえき

ごぼう市の中心部にあり紀州鉄道のじむしょがある、えきです。ここには検修庫もあります。オリジナルグッズもはんばいしています。現在、しょくいんさんは9人で、そのうちうんてん士さんは4人だそうです。

学門えき

下車すると、すぐのところに県立日高高校があります。学校の門の前に、えきがあることから名づけられたえき名だそうです。

ごぼうえき

JRごぼうえきの0ばん線、これが紀州鉄道の発着えきです。ここはえき舎はなく、JRからホームを間借りしています。8時台、17時台は、通きん、通学の人たちがたくさんりようしています。

「学問」えきではなく「学門」えき!?

えきこうないには、えき名にちなんで学問じぞうがまつられています。受けん生がおまいりするとごりやくがあるそうです。「学校の門に入る」でえんぎがよく、学門おまもりは人気です。

今ではめずらしい硬券きっぷ!!

きいごぼうえきでは、きねんきっぷや硬券がこうにゅうできます。学門えきの入場けんは受けん生に人気です。

終点の西ごぼうえきの廃線あと。ここからまだ700m先の日高川えきまで走っていたが、平成元年に廃止になりました。今も廃線のレールはのこっています。昔は主に木材やみかんなどをつみ、日高川河口のみなとまではこび、ここから船づみして神戸や大阪などにとどけられていたそうです。

副しょちょうの岡地さん、ありがとうございました。

へんしゅう後記

ちょうどこの新聞を作っているときに、西ごぼうえきが完全無人化になると知り、ぼくは少しさみしい気もちになりました。でも、まちの人たちの多くが紀州鉄道を"ふるさとの誇り"と思っているということも分かったので本当によかったです。今日もゆっくり、のんびり一両の紀州鉄道はトコトコ走っています。みなさんも紀州鉄道にぜひのりに来てください。